

令和5年度 城山公民館運営審議会会議録

1 日 時 令和6年3月14日(木) 午前10時30分～11時30分

2 場 所 城山公民館本館 102教室

3 出席者 〈委員〉6名

寺島 頼利(第二地区住民自治協議会会長)

西澤 利治(第一地区住民自治協議会会長)

岡村 貴子(第一地区住民自治協議会地域福祉ワーカー)

松田 愛絵(第二地区青少年健全育成委員会委員長)

松木 秀樹(第二地区住民自治協議会教養文化部長)

谷口 陽治(市立柳町中学校校長)

※北條 千秋委員、草野 絵里子委員、山崎 光信委員は都合により欠席

〈事務局〉2名

小池 英樹(市立城山公民館館長)

須田 公章(市立城山公民館係長)

長野市公民館条例第15条の規定に基づき、委員(定員9名)の過半数の出席があるため、会議成立を事務局より報告した。

4 報告事項

〈事務局〉事務局より、令和4年度及び令和5年度の公民館概要と公民館企画事業の報告を行った。

主な報告内容：予算・職員体制、活動の重点目標、成人学校事業、市民講座・学級事業、成人祝賀事業、作品展・学習発表会事業、館報発行、公民館利用状況 について

5 審議事項

〈事務局〉令和5年度の活動を振り返り、令和6年度の課題・方針について委員より意見・要望をいただきたい。

〈委員〉地元住人として、チラシ等を地区回覧していただいている中で、盛沢山の企画をしていただいている。報告の中でも大変多くの参加者がいらっしゃるが、会場の大きさや人数等について適正に行えているか。また、公民館職員の負担も大きいのではないかと。

〈委員〉関連して、会場のキャパも含めて、現行の募集人数は多いのか、もう少し受け入れられる余裕もあるのか。

〈事務局〉成人学校の講座数や年間40～50件の市民講座を企画しているが、配置されている職員数からみると若干負担は大きいと感じているところもある。過去には年間80件近くの市民講座も企画したが、その当時は職員数も6～7名配置されていた。城山公民館に市民講座を開催して

ほしいという要望はかなりあるので、講座の激減はできないが見直しはしていかなければならないと感じている。参加（募集）人数については、企画の段階で講師とも相談しながら適正な人数の募集を行っていると思う。

〈委員〉募集人数に対し、参加申込者は常に定数に達しているのか。

〈事務局〉ほぼ募集人数を上回る申し込みをいただいております、申込者のキャンセル待ちが生じる状況である。

〈委員〉大勢参加いただけていることは大変ありがたいことだと思います。

〈委員〉城山公民館で企画した事業は管区以外の住民の参加も可能であるのか、また城山管区（第一地区・第二地区）の参加者の割合はどのくらいあるのか。

〈事務局〉参加者の居住別での参加割合は統計を取っていないため不明であるが、市内一円から参加いただいている。ただ、城山公民館が第二地区（東之門町）にあるため、第二地区周辺の参加割合が一番多い。地区回覧は城山公民館管区の第一・第二地区を対象としているが、市ホームページや各種媒体へのイベント掲載を行っているため、管区外や市外からの参加者も大勢おられる。城山公民館を利用する各サークル団体の方々も市内各地から利用に来られるため、来館の際にポスターやチラシを見て申し込まれる方もいる。城山公民館の特色だと思います。

〈委員〉他の公民館と比べて多種で特徴がある講座が多いことが遠方からの申込みに繋がっていると思う。

〈委員〉先ほどの事務局から報告いただいたが、成人学校や講座等多岐にわたり大変多くの企画をいただいております、参加者も大勢いる。公民館が地域活動の拠点となっていると改めて感じた。中学校の実状から申し上げますと、皆さんもご存じだと思うが中学校の部活動が地域移行に進んでいる。室内楽部を指導いただいているのが地域の方々である。地域の皆様と室内楽部の生徒が上手に連携しながら学校内で活動している。運動系の部活は今後どのように地域に拠点を動かしていくかが課題である。文化部の中でも美術部や科学部や茶道部の活動の場を地域移行といっても受け入れてくれる、中学生と一緒にやっていただける環境が整えられるかという難しい面もある。成人学校の講座を拝見すると、美術や茶道など中学校生徒と一緒に地域の大人の方と学ぶ機会がとれたら子供たちにとってもいい経験になると思う。ただ、学校の部活動の概念と生涯学習をどう繋げていくかはまだまだ課題がある。

〈委員〉育成会でも小中学生の学びの場が少なく、公民館の企画講座を参考にさせてもらいたい。中高年の受講・参加が多いと思うが、小中学校生や中間層の年代が参加できる企画があればよいと思う。学校との連携事業についても報告いただいたが、もっと広げてもらいたい。公民館職員は大変だと思うが、学校の先生方にもご協力いただきながら続けてほしい。

〈委員〉公民館事業と民間（カルチャーセンター等）の違いについて、お互いの特色を出していく必要がある。啓発の場として公民館の置かれている立場は必要である。事業執行に関し予算的には厳しい面はあるのか。

〈事務局〉財政状況から人員増も含め事業拡大は厳しい面がある。

〈事務局〉先ほど委員からご意見いただいたが、同じように中学生の親御さんからも成人学校の茶道講

座に中学生が参加して大人の方と一緒にお作法を学ぶ機会がとれないかとの意見もいただいた。また、コロナ前は成人学校の講師が小中学校に出かけて行って臨時（出前）講師をするのはどうかとの発想もあった。子供のころの関わりが大人になって公民館に親しみやすくなるきっかけとなるのではないか。

〈委員〉館報についてだが、地域と関わりの深い記事で毎回発行を楽しみにしている。（現在はモノクロだが）カラー印刷にならないのかなと期待している。予算の都合もあると思うが。

〈事務局〉前年度ベースでの予算要求となるため、カラー印刷は難しい状況である。館報の編集にあたっては第一・第二地区から各2名編集委員として携わっていただいているので地区の関わりの深い内容を掲載することができている。

〈委員〉成人式だが、（当日運営に）携わらせていただいた。昨年度より市民会館（芸術館）で合同開催されていたものが地元開催に戻り、地域でお祝いできることはいいことだと思う。

成人の意見を聞く機会が職業柄多くあったが、成人者からは内容が堅い、つまらないから参加しないという意見も聞かれる。厳粛な式典のほか、昨年度に行った式典終了後の善光寺内陣法要等地元ならではの特色ある内容があれば参加者も増えると思う。

〈事務局〉公民館、住民自治協議会、成人代表で構成される「成人式実行委員会」で内容を検討していきたい。

〈事務局〉委員の皆様から大変貴重なご意見をいただいた。今後の事業活動に活かしていきたい。

以上